

MINOBUSAN UNIVERSITY

INTERNATIONAL EXCHANGE COMMITTEE

NEWSLETTER 2017 #1

▼活動報告 I : 第 13 回 やまなし留学生スピーチコンテスト

金 炳坤 (国際交流委員会委員)

特定非営利活動法人大学コンソーシアムやまなし・やまなし留学生スピーチコンテスト実行委員会主催の「第 13 回 やまなし留学生スピーチコンテスト」が、2016 年 12 月 17 日 (土) に開催されました。

本学は、2013 年 (第 10 回) より参加しており、昨年度 (第 12 回) は、金東姫さん ([YouTube](#)) が「印傳屋賞」を受賞しました。また、今年度からは共催校の各校として加わっています。

「こうなったらいいな山梨」をテーマ (告知チラシは[こちら](#)) に、[山梨県立図書館](#) (1 階イベントスペース) において開催された今年度は、山梨県内の 6 大学に在籍する中国、韓国、ベトナム、カナダ、オーストラリア、ウズベキスタンからの留学生 22 名が参加し、5 分以内の日本語のスピーチを行い、日本語能力、表現力、構成力、発想力、論理的思考力を競い合いました。

本学からは金漢洲さん ([YouTube](#)) が参加し、「もっと多くの人びとが足を運ぶ、そんな世界の山梨になったらいいな」と、広報活動の工夫と方法について力説し、見事「コラニー・ダイヤモンド賞」を受賞しました。



表彰式終了後、金漢洲さんは「山梨は、実際に自分が住んでいるところであるため、他の人のスピーチを聞いてとても共感できる部分が多く、スピーチ聞いているだけでも楽しかった」と、また「スピーチ終了後に行われた交流事業では、じゃんけん列車やクイズなど、身体を動かしながら、他の大学の留学生と交流を図ることができてとても楽しかった」と、そして「たくさんの先生方のご指導のもと一生懸命に頑張ったつもりであるが、3 位内入賞という期待に応えることができず、とても残念であるし、申し訳なく思っています。しかし、このような機会を通して、今後の人生において糧になるような貴重な経験ができて、本当に良かったと思っています」と、スピーチコンテストを終えての感想を述べてくれました。

金漢洲さん「コラニー・ダイヤモンド賞」の受賞、本当におめでとうございます！

●スピーチコンテスト関連記事

[山梨学院大学 blog](#) / [第 13 回やまなし留学生スピーチコンテスト入賞者結果発表](#)

◆写真：伊東久実

日本に到着した私が最初に向かったのは、日本仏教の総本山の一つである身延山久遠寺でした。華やかな日本の伝統様式のお寺に差し込む春の日差し、そして咲き誇る桜の美しさに私はとても感動しました。

身延山の桜を目当てにやってくる観光客も多く「ここは観光地としても栄えているんだ」と思い、これから始まる留学生活に期待で胸を膨らませました。

しかし、実際に生活してみるとその期待は少しずつ変わっていききました。それは春が過ぎると「観光客の足が途絶えて観光地として機能していない」と感じたからです。なんだかすごくもったいない気がしてなりませんでした。

そうです！何かが足りないのです！それは何でしょうか？私は第二のふるさととなった、この美しい山梨にもっと多くの外国人観光客に訪れてほしいと思います。

観光地として一番始めにしなければならないのは何だと思いますか。それはアピール、つまり「広報」だと私は思います。広報活動というと大変難しく、多くのお金がかかると思われがちですが、ほんとうにそうでしょうか？

現在、山梨県の観光スポットについて書かれているものは意外と多いです。しかし、それらがほったらかしにされてはいないでしょうか？いまこそこの点について見直すべきだと思います。

最近、非常に強力な広報効果を発揮している媒体があります。それはSNSです。

実際、若い人たちが他の国に行く場合、一番始めに行うのは、SNSでその国についての書き込みをチェックすることです。

その国に訪れてどのような体験をしたのか、さらに、どのような感想を持ったのかをまずみます。私もそうですが、SNSでシェアされた素敵な写真をみると、すぐにでもそこに行ってみたいという気持ちが生まれます。

その書き込みに旅行のコースに関する簡単な説明や記録などを書きくわえれば、読み手に大きな関心を持たせることができます。つまり、フェイスブックやインスタグラムに山梨県の観光スポットを紹介するページを開設して、私たちのような留学生の協力を得て、その土地の素敵な場所を調べ、いろんな国のことばで書き込んでもらうようにしたらいいと思います。

その記事を見た人びとが、継続的に「いいね」をクリックして、コメントを重ねることが定着すれば、その輪は広がり世界中の人びとが見ることにつながります。

山梨の観光協会と私たち留学生がタイアップして、私たちがまだ知らない山梨の素敵などを観光協会が紹介してくだされば、私たちはそこに足を運び、そして、多くのコメントを書き込むことができます。これが、最も簡単に、しかも、最も大きな広報効果を生む方法ではないでしょうか。

私がこのように広報を強調する理由は、私が住んでみて感じたここ山梨の美しさを、私一人だけが知っているのはとてももったいないと考えているからです。この素晴らしさを、私ばかりでなく、世界中の人びとと共有したい気持ちでいっぱいだからです。だからこそ広報にもっと工夫をすべきだと思います。

今回、私が考えた広報がうまく行けば、ここ山梨はもっと活性化され、より国際的な観光地になるでしょう。私は、外国人を含め、もっと多くの人びとが足を運ぶ、そんな世界の山梨になったらいいなと思います！

◆指導：木村中一・伊東久実

▼活動報告Ⅱ：身延中学校交流授業

伊東 久実（国際交流委員会委員長）

2016年12月21日（水）に身延中学校との交流授業が行われました。中学1年生66名を対象に本学の留学生金漢洲さんが講師を務めました。



中学生は、韓国と日本の文化の違いや、簡単な韓国語の挨拶を学びました。その後、折り紙を使った韓国の伝統遊び「ジェギチャギ」をチーム対抗で行いました。金漢洲さんは、中学生が遊びを通して韓国語の数の数え方を楽しく、自然に学べるよう、授業の工夫をしていました。

最後は、中学校統合により新たに創られた校歌が披露されました。中学生の明るい歌声と、漢洲さんの達成感とで90分間の交流授業は締めくくられました。

◆指導・写真：伊東久実

▼2017 交換留学生募集：大韓民国金剛大学校への夏季・冬季短期留学

金 炳坤（国際交流委員会委員）

2017年の夏休み（9月）、または2018年の春休み（3月）を利用して、本学と友好交流協定を締結している大韓民国金剛大学校へ一か月間の短期交換留学に行きませんか！

本学の在校生であれば、交換留学のための授業料・宿泊費は一切かかりません。渡航費・生活費のみ自己負担になります。ただし、交換留学には来年度開講の韓国語の履修または聴講が必須となります。

来年度は金剛大学校からの交換留学生が2名来校する予定です。韓国語の授業では、ネイティブの担当教員に加え、交換留学生がSA（スチューデント・アシスタント）を務めるため、身近にかつ親密に交流を行うことができるとともに、基礎からしっかりと体系的に韓国語を学ぶことができます。

休みを利用した効率的な交換留学に興味のある、仏教学科の学生は金炳坤先生まで、福祉学科の学生は伊東久実、檜木博之先生まで、そして学生支援室の佐藤英煌さんまでお気軽にお問い合わせください。

詳しくは、身延山大学公式サイトの[国際交流](#)ページを参照してください。

●先輩たちの「交換留学体験記」はこちら（[2016年の春休み](#) / [2016年の夏休み](#)）

◆登録：2017年1月21日